



## 残食 ZERO にチャレンジ中！！

毎月19日は『食育の日』ということをご存じでしたか？

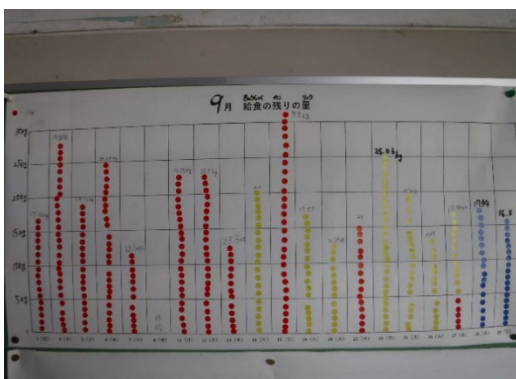
なぜ19日が食育の日なのか…。さまざま説があるようですが、食育の「育(いく)」という言葉が「19」という数字を連想させること。「食」という言葉も「しよ⇒初⇒1、く⇒9」ということで、「19」を連想させることから19日が食育の日となったということです。また、平成17年10月19日に、国の第1回食育推進会議が開催された経過もあるようです。



19日に限らず、みんなで一緒に食事をすることによって食事は楽しい、美味しいと感じられる機会を増や

していくことは、子どもの健やかな成長を促すだけでなく、豊かな心を育むということがわかっています。

学校では新型コロナウイルス感染症が今年の5月に第5類感染症に移行されてから、パーティションも教室からほぼ姿を消し、黙食期間もなくなり、コロナ禍前の給食の風景が戻ってきました。しかし、気になることが…。それは残食量です。



上の表をご覧ください。少し見ずらいかもしれませんが、これは9月の給食残食量のグラフです。残食の量に応じてグラフにシールが貼られていきます。この表は給食室横に貼り出されています。

先日、佐藤学校栄養士から、給食時間の放送で次のような話が全校に流されました。「毎日給食の残食量を調べています。残食のシールがつかない日はまだありません。残食はごみとして捨てられてしまいます。給食調理員さんは朝早くからみなさんのために給食準備をしてくれています。毎日食事を作ってくれ

る方の顔を思い浮かべながら食事をしてほしいと思います。」

一方で給食委員会から残食を減らすための取組も始まっています。名付けて『残食 ZERO チャレンジ』。この活動は各クラスに『残食 ZERO チャレンジカレンダー』が配付され、残食がなかった日にカレンダーにしるしをつけていきます。10月中に残食がZEROだった日が多かったクラスを放送で発表するというイベントです。

食品ロスはSDGsの目標のひとつにも取り上げられており、日本でも学校給食における食品ロスの現状

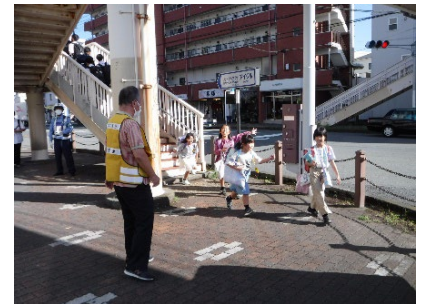


は深刻とされています。生き物の命をいただくために食事の時のあいさつをすること、給食調理員さんや学校栄養士さん、食材になる生き物や生産者など多くの命や人が関わっていることに対し、感謝の気持ちを持ち、残さずに食べてほしいものです。

食育は生きる上での基本で、知育・徳育・体育の基礎となるべきものだと私は思っています。子どもたちには食事に対する感謝の気持ちと同時に調和のとれた食生活を心掛けてほしいと願っています。

## 新たな下校時の見守り活動が始まりました！

現在、本校正面のマンション「L-ウイング」にお住いの自治会の方々が、日々下校時の子どもたちの見守りにあたってくださっていますが、9月下旬から追浜歩道橋(消防署付近)の場所で、追浜本町二丁目親和会の方々にもご協力いただき、下校時の見守り活動をしていただくことになりました。



地域の方々が、子どもたちの安心・安全を確保してくださる取組が広がり、大変心強い思いとともに感謝の気持ちでいっぱいです。

お身体にご留意いただき、これからも子どもたちへの温かな見守りを、どうぞよろしくお願いいたします。